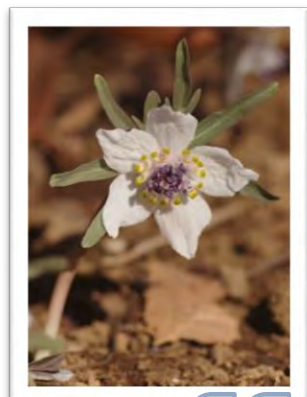


自然教育園の 2月に見ごろの植物



セツブンソウ **武 路**



ユキワリイチゲ **武 路**



フクジュソウ **武 路**



ミヤマカンスゲ **武**



フキ(ふきのとう) **武 水 路**



シキミ **路**



モクレイシ **路**

果実が割れた様子



ホシラン(実) **武 森 館**



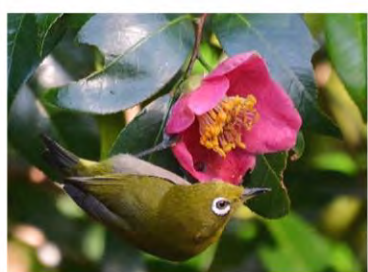
スギナ(つくし) **水**



マンサク **路**



アオキ(実) **路 森 鳥 館**



ヤブツバキ **路 森 鳥 館**



キチジョウソウ(実) **路 館**

いきもの解説



セツブンソウ
 <2月上旬～2月下旬>
 「節分の頃咲く」ことが名前の由来。山地の樹林に生えます。園芸目的の乱獲で激減し、環境省のレッドリストでは、「準絶滅危惧種」に指定されています。

武 路



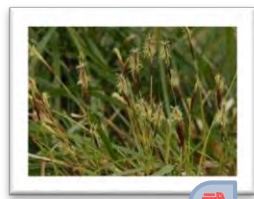
ユキワリイチゲ
 <1月下旬～3月中旬>
 小さな薄紫色の花が咲いています。葉は、野菜のミツバ（セリ科）によく似ています。名前の「一華（いちげ）」はイチリンソウ(別名イチゲソウ)の仲間であることによります。

武 路



フクジュソウ
 <1月下旬～3月上旬>
 福寿草（ふくじゅそう）の名前は、旧暦の正月ごろに咲くため、新年を祝うめでたい花としてつけられました。春にだけ地上に顔を出す春植物のひとつで、地上部はやがて枯れてしまいます。

武 路



ミヤマカンスゲ
 <2月中旬～3月中旬>
 手持ち花火のような、面白い形の花をつけます。頂上で目立つのは「雄花」で、よく見ると茎の途中に「雌花」があることがわかります。

武



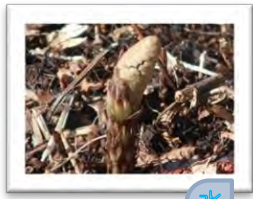
シキミ
 <2月上旬～3月下旬>
 花はとても美しいですが、実は有毒植物。神社や墓地によく植えられます。これは、かつて土葬の際に、シキミを墓の周囲に植え、野生動物の掘り返しを防いだことによります。

路



モクレイシ
 <2月上旬～3月中旬>
 緑白色の小さな花をたくさん咲かせています。モクレイシは、ツルレイシ（ニガウリ）に対して付けられた名前。果実が割れ赤い実を出す様子が、ニガウリが熟した種子を出す様子に似ているためです。

路



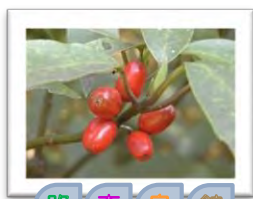
スギナ(つくし)
 <2月下旬～3月下旬>
 つくしは、スギナの胞子茎（胞子をつけるための茎）で、春の風物詩としておなじみ。食用にもされます。小さくて見つけにくいですが、是非探してみてください。

水



マンサク
 <2月中旬～3月下旬>
 見上げると、枝に黄色の小さな花が咲いています。名前の由来は、数多くの花が咲くときは豊年「満作」となるとい説と、春に他の花に先駆けて咲かせるので「まず咲く」がなまったという説があります。

路



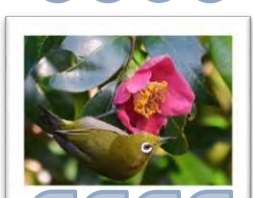
アオキ(実)
 <12月中旬～3月中旬>
 赤く熟した実が、とても目立ちます。樹林にごくふつうにみられる植物で、庭木としてもよく植えられます。葉は民間薬としても利用されます。

路 森 鳥 館



フキ(ふきのとう)
 <2月上旬～3月下旬>
 春の訪れを告げる「ふきのとう」が顔を出しました。フキの「花がつく茎（花茎）」にあたり、山菜としてもおなじみです。ふきのとうには、やがて花となる「つぼみ」が入っています。

武 水 路



ヤブツバキ
 <11月下旬～4月上旬>
 寒い冬でも、花を咲かせます。メジロなどが花を訪れ、花粉を運びます。花は丸ごと散ります。

路 森 鳥 館



ノシラン(実)
 <1月下旬～3月中旬>
 コバルトブルーの綺麗な実をつけています。ノシランの名前は、花茎（花だけつける茎）が平らで熨斗（のし）に似ていることからついたと言われていました。

武 森 館



キチジョウソウ(実)
 <11月上旬～3月下旬>
 可愛い赤い実をつけています。今赤いものは、去年の花ではなく、一昨年の花が実になったものです。

路 館



ルリビタキ
 オスは青い体、メスは尾だけわずかに青色です。オスが青くなるまで2～3年かかります。繁殖期は亜高山帯の針葉樹、冬は平地の林などでみかける。

オス



メス

全域でみられる